



～文化の風が吹くまち ちくしの～

文化薫道



◆其の七十五

地名にみる筑紫氏の足跡

小高い丘の上に建つ筑紫小学校。その周辺には、中世の城・館に由来する地名が多く見られます。

「城ノ腰」・「矢倉」の地名(小字)がある筑紫小学校付近は城の本丸と推測され、その周辺には「大手門」・「城屋敷」・「上小路」・「裏門」の地名が集まっていることが分かります。また、少し離れて「太郎丸」・「米丸」の地名も見られ、出丸(本丸を守るために張り出した施設)の存在をうかがわせます。

宝永6(1709)年に書かれた福岡藩の学者、貝原益軒の『筑前国続風土記』によれば、「城ノ腰」の地名について「筑紫氏筑紫社司たりし時住せし宅の跡なり。」と記されており、筑紫氏が筑紫神社の宮司を務めた時の居館であったと考えられていたようです。

筑紫氏は、戦国時代に勝尾城(佐



筑紫小学校付近の地名分布

賀県鳥栖市)を本拠として活躍した一族です。「城ノ腰」の位置は、想定される筑紫氏勢力圏の北端付近にあり、また、その北辺には宝満川が流れており、天然の要害であったと同時に、その最前線とも言える場所であったと考えられます。

この付近には、後世に長崎街道が設けられ、また、現在でも道路や鉄道が集中する交通の要衝です。このような筑紫の地が持つ地勢的な重要性から、拠点となる居館が築かれたのではないのでしょうか。地名にみられる城・館の名残から、かつて活躍した武士たちの姿を想像してみたいかがでしょうか。

文化財課



筑紫野市フェイスブック

<https://www.facebook.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市ツイッター

<https://twitter.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市LINE公式アカウント

<https://lin.ee/6X9wMoy>